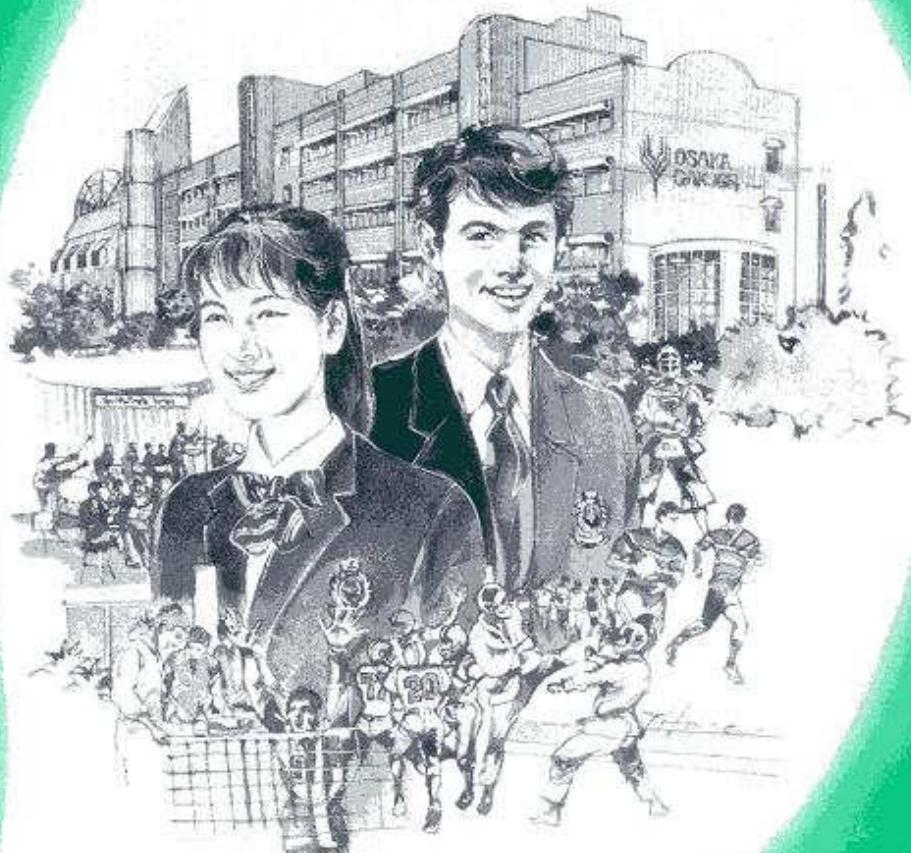


学芸



CONTENTS

- 会報「学芸」第4号
発行にあたる 2
会員・外刊情報 2
- 高校時代の振り返り 2
海南正雄社長
- 母校復興の裏話 2
高橋義重(元大統領)
- 昭和50周年記念
文化講習会 3
常務理事・山本和也
- 文化部 3
国際コース網羅
- 研究会文部
研究に取り組む 4
家住ち大曾根・西野洋介
- 外清発刊に携わる 4
副会長・松田和人
- 大阪府青少年博物館
一進から 5
歩く想い(園村ハヂロー) 5
小説欄
- 著書だより 5
クラフ運動
モースルタリア
はなわらか
- 開校50周年 6
- 会報 6
- 同窓会活動報告 6
- 年度記録 10
平成11年度定期会
他の講演会記事
11
- 平成2年復興
大蔵和也 11
- あとがき 12
- 平成11年秋季号
新規会員ご案内 12

1999
No. 4

2003年 百周年 未来へ翔る大阪学芸!

成器学園同窓会
大阪学芸中学校 大阪学芸高等学校

会報学芸 第四号発行にあたり



同窓会会长 井内博見

母校学校法人成器学園は平成十五年（西暦二〇〇三年）に創立満百周年を迎える。この時期には卒業生は約三万人に達するものと予測されます。平成十年は創立九十五周年を迎え、去る十一月九日、中之島フェスティバルホールで記念文化行事が盛大に開催されました。出席者約二千名が楽に収容できる大ホールで和太鼓の演奏を皮切りに韓国舞踊を「グループ黎明」が上演、最後のノンとして「関西フィルハーモニー管弦楽団」のオーケストラ演奏があり、親しみやすい曲目を選んだ内容は十分に聴衆を魅了しました。この記念行事は九十五周年の区切りであると同時に百周年の幕を開きの舞台でもあったと思います。これから愈々百周年に向けて、色々記念行事が取り組まれていくことになります。

二〇〇三年「百周年未来へ翔る大阪学芸」の横断幕が既に学校正面玄関の上部にかけられています。既に学校では「百周年記念事業委員会」が設置され、その下部機構念事事業委員会としても百周年を焦点に、記念事業に参画していかねばならないと考えております。既に学校では「百周年記念事業委員会」が設置され、活動を始めています。種々議論をして成案を得れば、同窓生各位へお伝えする予定です。さて、現状の学園と同窓会の活動状況につきご報告します。現在男女共学六年一貫教育の大坂学芸中学校は三年生までが一所あります。大阪学芸高は三年生までが一所あります。

校も今年から国際コースが男女共学となり、男子校から男女共学校に変わり在校生千百七名、合計総生徒数は千四百三十名であります。平成元年度一千八名（高校のみ）いた生徒数は少子化の影響で、この当時の約七割（高校のみでは約五五%）に減少していますが、公私立とも同じ傾向です。ただし進学率のよい高校には受験生が集中しますが、反対の場合は学校の存続が難しくなるほど生徒数が急減している学校もあります。教育施設と共に、生徒に勉強心を湧きたたせる教育ソフト、教育中味が強く求められるようになってきました。このような社会的要請に応えられなければ学校の発展は期待できないでしょう。



学校長 猪瀬正雄

一、中学校・高等学校校長就任挨拶

大阪学芸中学校・高等学校
・校長就任挨拶
・学事報告

二、学事報告
(一)高等学校：「一年生は三百五十六人入學し、四年には「ハチ北高原」へ、オリエンテーションに行きました。新設の

一方同窓会の活動では七月三十一日付で同窓会の会員名簿を発行しました。又八月三十日には東住吉支部が誕生しました。同窓会組織のネットワークを広げていく、モデルケースです。この外恒例の定期総会、高野山一泊参拝旅行、東部成器会総会及び秋季懇親会が予定通り開催されました。秋の懇親会は登録出席者八十二名と久し振りに活況でした。

最後に同窓会報は母校と同窓生とを結ぶ唯一の綱であります。母校の発展があつてこそ同窓会であり、母校の繁栄は我々に幸いです。現在男女共学六年一貫教育の大坂学芸高は三年生までが一所あります。

「国際コース」では、女生徒が十三人入學し、国際理解講座など斬新なプログラムをこなしています。九月の文化祭では、七月の和歌山毒物カレー事件後の類似事件多発により、生徒達の食材模擬店は中止としました。二年生は十月にオーストラリアへの修学旅行へ出かけ、ファームステイ、姉妹校交流など全員楽しい思い出を満載して無事帰国しました。十一月九日には九十五周年記念文化行事として、フェスティバルホールで和太鼓・韓国舞踊・関西フィルの演奏を聴く機会を持ちました。クラブ活動では空手部・詩吟部は全国大会に出場、吹奏楽はプロック四位、バレーボールは近畿大会へ、野球部は夏の大会では四回戦まで進出し、新聞でも大きく取り上げられました。税金の作文でも表彰を受けました。

(二)中学校：中学校は今年三学年が揃つて形が整い、PTAも出来ました。在校生の数は合計三百二十三名です。将来の難関大学進学を目指して、授業時間数も多く、先生・生徒達は毎日遅くまで学校に残っています。バランスよく成長していくため学校行事も多く、春の神戸六甲山への一・二年生のオリエンテーション、六月の体育祭、夏には一年生は林間学校として呼子高原へのキャンプ、二年生は阿南へ臨海学校、三年生は富士登山、八月には夏祭りが盛大に行われました。九月は芸術鑑賞として一・二年生はミュージカル鑑賞、三年生は落語鑑賞をしました。十一月にはスポーツ大会があり、全員頑張りましたが、中でも女子の創作ダンスは見事でした。十二月には二年生がカナダへ語学研修に行き、クリスマス音楽祭で今年を締めくくります。また、定期刊行物「GAKUGEI」は力作です。

東校舎増築の意義

専務理事 渕上英範

になっていくのです。

国公立大学、関関同立等有名私大への進学を目指に「六年制一貫教育」と「男女共学」を制度面の特徴としてスタートした大阪学芸中学・高等学校（六年制課程）が四年目を迎える。いよいよ高等部へ進級することになります。現在、増築中の東校舎は、当面六年制課程の高等部の生徒を収容する予定です。校舎は鉄筋四階建で、普通教室十三室、多目的教室、職員室等が設けられます。

六年制課程の創設は、「少子化」による生徒数激減によって「三分の一以上の私学が潰れる」といわれる厳しいサバイバル競争の時代に向けて、本学園が生き残りを賭けて打ち出したいわば最後の手段なのです。

「生徒急増期」のピークだった昭和六十二年の府下公立中学卒業者は十四万八千人、それが来年度で八万六千人、さらに二十年後にはピーク時の四割の五万人台に減少すると見られています。これからは学校が「生徒を選んだ時代」から、生徒や保護者が「学校を選ぶ時代」

本学園が「選ばれる学校」になるために選択した方針が「大学進学校」になる道でした。世間でいう「進学校」とは関同立に二百名以上、国公立大学に数十名合格させる学校だそうです。

百周年に当る二〇〇三年には、一、二期生が卒業します。この時期に三年制課程と合わせ、関関同立に二百名以上を合格（現在約三〇名）させて、「進学校」の仲間入りをすることが、学園存続の重要な条件です。今年と来年で十六名（内女子十二名）の若い先生方が入園します。ベテラン教員との組み合わせで目標を達成する人的条件は整っています。

「誇れる母校」を実現するために皆様のご理解とご協力を願います。

学年	生徒数	男子	女子
1年	97	74	23
2年	110	71	39
3年	116	75	41
合計	323	220	103

学園95周年記念 文化祭典挙行

常務理事 山本和光

十一月九日（月）フェスティバルホールにおいて挙行された学園創立九十五周年記念文化祭典は、公立中学校や塾の先生方、日頃お世話になっている方々、同窓生の皆さま、中学高校在校生、保護者、役員、教職員が一同に会し、二十一世紀へ向け飛躍する成器学園の雄姿と心意気を示すものとなりました。

厳粛な開会セレモニーの後「OSAKA A打々々團天鼓」による迫力ある和太鼓演奏、「グルーブ黎明」による激しくも優雅な韓国舞踊、「関西フィルハーモニー管弦楽団」によるヨーロッパのクラシック音楽と、伝統文化を継承しながら新しい文化的創造に取り組んでおられる方々のダイナミックでエネルギーッシュなステージは、参加者に大きな感動＝生きる勇気と力を与えてくれました。

この迫力や臨場感を知つていただけるようビデオ（ダイジェスト版）を製作しました。機会がありましたら是非ご覧ください。

二〇〇三年（平成十五年）は創立百周年を迎えます。**百周年未来へ羽る大阪学芸**を合言葉に各委員会が準備や取り組みをはじめています。みなさま方のアイディア、ご意見をお寄せいただき、九十五周年行事以上の企画にしたいと思っています。ご協力の程よろしくお願ひ致します。

我々も個人的鎖国状態になつてはならない。そういう点ではこの国際コースは時代に即した魅力あるコースと言える。

男女共学 国際コース新設

高校始まって以来初めて本校に男女共学の国際コース（男子二十六名、女子十一名）が平成十年四月より新設された。

このコースは文字通り国際人を育成し、また大学進学にも対応できるようなカリキュラムとなっている。目新しい科目として、国際理解、第2外国語、英語表現、情報科学などがあり、英語劇なども行う。

また、関西国際空港でのフィールドワーク、それに外国人を交えてのサマーキャンプ等が滋賀県で実施され、着実に語学力を身につけている。さらに二年次には四週間のカナダでの語学研修が実施されることになつていて。インターネットの電波が飛び交う今日、グローバルな情報を的確に把握し即戦力となりうる人物の育成が重要視されている。

我々も個人的鎖国状態になつてはならない。そういう点ではこの国際コースは時代に即した魅力あるコースと言える。

第一回成器学園同窓会東住吉支部発足に想う

東住吉区支部長（昭和34年卒 高校11期）

西野仁彦

同期の武田義明君の紹介で学園同窓会より派遣されてきた米田耕作氏と二人で矢田駅近くの喫茶店で逢ったのは平成十一年三月のことであった。何かと多忙な毎日であるが、懐かしさもあって自転車に飛び乗ったのである。私の住む鷹合と彼の家とは近い距離であったが、再会するには本当に久しぶりであった。お互いに頭に白いものが目立ち、随所に老いの気配を感じたが成器時代の二人に戻るには時間が掛からなかった。彼は関西大学を卒業後司法書士として活躍していたが、健康面でしかたなく自家業の衣料品店を駅前で営んでいる。不況の波は容赦無くこの商店街をも丸呑みにしようとして、船頭役の彼が中心となりアーケードとアロムナードの着手をし、乗り切る一つの賭けに出ようとしている時期であった。工事の企画・見積り・金策・会のまとめ・深夜工事の立会い等心身共に余裕がなく、私も米田氏紹介するしかなかつたのである。米田氏は私の性格を見抜き、勝算有りと見たのか一気に攻撃し始めた。同窓会には組織部があり、会の見直しと発展を常に考慮し取り組んでいる。創立百年に近い学園の同窓会にしては組織的に後れしており、個々にクラス会や同期会、地域同窓会、クラブOB会、職場同窓会等開催されているがまるで糸の切れた風のごとく飛ぶ先も落地下地点も不明なのである。これからは学園同窓会が風の引き手となり、点を線に繋げなければならぬ。既に描かれた青写真は実に見事だが、余りにも膨大過ぎて机上の空論になりやすい。役員会はそれを危惧しモデル支部（住吉区・東住吉区）を選定し成り行きを吟味することになる。私は今の担当者から東住吉支部の代表幹事に成るように、執拗な勧誘を受けていたのである。更に

独立採算、幹事探しもこれからと言ふ状態であり唖然となる。こんな馬鹿な話を真顔で持ち込む人は余程の馬鹿な人で、よく頼みに来るなと思いはしたが、私も人後に落ちない程の馬鹿な男ゆえ承諾する。兄も私も中高の六年間を成器で学び、息子も成器の卒業生だから当然のことかも知れない。

四月には総会の席で挨拶し、懇親会に出席する。五月は会員名簿作成と支部の旗揚げをする会場（日時）を決定、そして案内文を作成する。六月は同窓会の定期役員会に出席し、東住吉支部の経過報告をする。六月末には自宅を事務局とし、七百六名の会員に案内状を発送する。七月は返書の整理と戻りの原因調査をし再発送する。支部会員の出席者数を見ながら関係者に案内状を発送したり、二人で自転車まわりと電話で出席のお願いをする。八月中旬は手当り次第に電話攻勢し、協力的な方には自転車で幹事のお願いに奔走する。その甲斐あってか住道矢田で梅千しの会社を経営している稗田成三氏（S30年卒）と司法書士事務所の代表者の大野均氏（S46卒）、そして湯里で藤原石油社長の藤原享二氏（S39卒）が幹事に加わり、合わせて六名となる。

思い付くまま会員名簿・式次第・座席図・支部会則・同窓会の組織図・幹事のプロフィール・参加者名簿・経過報告・校歌・同窓会歌・名札・お土産・領収書・支部印・寸志・つり銭・カメラ・受け付け備品等を前日迄に準備完了する。

平成十年八月三十日（日）午後二時、難波道頓堀ホテルにて第一回成器学園同窓会東住吉区支部総会及び懇親会が開催された。今、正に待望と緊張の感動の場が展開され、モデル東住吉支部がスター



東住吉支部総会出席者（於 道頓堀ホテル）

トするのである。出席者数は当日欠席二名と当日出席一名があり、予定数に一名不足したが二十九名であった。卒寿を過ぎても自分で愛車を乗りまわす程、元気な元校長・安永前校長・本部役員及び顧問の方々九名が顔を揃えられ、他に支部外会員三名そして支部会員十七名の内訳である。順調に総会と懇親会が進行し、予定通り午後五時丁度お開きとなる。

この会は会則に記載している様に母校及び本部同窓会との関係を密にし、その向上発展を期すと共に、会員相互の親睦を図ることを目的とする。会員は本校卒業生とその関係者で東住吉区在住者を以て組織する。総会と懇親会は二年に一回同日開催し、本部同窓会と連絡をとり期日を決定するとなっている。今後は本部同窓会を強力にサポートする支部にし、定期待通りのモデル支部となり先駆けて行く決意である。

最後になりましたが、物心両面に渡りご支援下さいました本部役員及び顧問先生方並びに、ご多忙中にも係わらずご出席下さいました会員の皆様方に、心中より厚くお礼申し上げます。

同窓会各員名簿を購入いただきました多くの皆様、そして賛助広告をいたいたいた。発刊するあたり、中央出版印刷様には、回を重ねての調査活動を行つ通り平成十年八月発刊することができました。同窓会を強力にサポートする支部にし、定期待通りのモデル支部となり先駆けて行く決意である。

最後になりましたが、物心両面に渡りご支援下さいました本部役員及び顧問先生方並びに、ご多忙中にも係わらずご出席下さいました会員の皆様方に、心中より厚くお礼申し上げます。

同窓会各員名簿は、五年に一度の発刊ですが、皆様のお力添えのおかげで予定通り平成十年八月発刊することができました。発刊するあたり、中央出版印刷様には、回を重ねての調査活動を行つました。同窓会各員名簿を購入いただきました多くの企業並びに会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。六百五十一冊のご購入礼申し上げます。六百五十一冊のご購入がありました。不況の中でもあります。同窓会の方でも若干のストックをしております。まだ購入されていない皆様には送料込みの四千五百円です。是非同窓会宛お申込み下さい。何分にも宜しくお願ひいたします。

会員の皆様にはご都合上で、「住所変更」がありましたら、異動通知カードにてお知らせ下さい。データの管理上とても大事ですし、必要です。何卒宜しくご協力の程お願い申し上げます。（異動通知カードは、同窓会各員名簿の巻末に付しております）。次回の発刊は、平成十五年です。母校が創立百周年という記念すべき年でもあり、一層充実した名簿を作りたいと思います。皆様の温かいご支援の程お願い申し上げます。

創立95周年記念名簿 発刊に際して

副会長

松田和人

（昭和41年卒 高校18期）

遙かな昔、遠い思い出

(昭和10年卒 2部第21期生)

子供の頃、私は十数年大阪市内で過ごした。親戚や姉の家に厄介になり、住んだ所も、境川、市岡、阿倍野、住吉、神崎川、接川、後路に転々とした。その時々、その所々で、それぞれに追憶は限らない。中でも市岡時代の思い出はとにかく鮮やかである。朝鮮半島から大阪に移ったのは大正十三年秋、小学校の二年生。朝鮮の田舎から大阪と違う大都会に出て来て、見る物聞く物すべてに驚かされた。私の寄宿した住居は棟削長屋。狭い道路をはさんで向かい合った長屋が相当長く続いていた。その下町の家々にはたくさんの子供たちがいた。通学前の幼い子達は、朝から道で遊ぶ。通学児童は学校を終えてから、一団となって道路でわいわい騒いだ。二年生で通った小学校は児童数が多くて午前午後の二部授業であった。

△

大阪に来て先ず驚いたのは、映画である。その頃映画は「活動写真」と呼ばれ、子供たちは「カットドウ」と言つた。私の家からかなり離れた所には、辰巳館と市岡俱楽部という映画館があった。映画は一本建つと一週間に上映が終わる。その変わりには、必ず町内をチンドン屋が練り歩いて、新上映の映画を販賣やかに宣伝した。楽器は三味線が主で、宣伝の前後に流行の演歌や民謡を唄つた。子供たちは、龍の鳥や枯れすき、鶴の五本松や安来節などをすぐ覚えた。チンドン屋の後に続き、一緒にになって唄い歩いたものもある。

子供は時代劇が大好き。それそれにひいきの役者（俳優）がいる。目玉の松ちゃん（尾上松之助）、百々之助（市川百々之助）、阪妻（阪東妻三郎）などの人気が高かつた。自分の好きな役者が一番強いと思いつみ、どちらか勝つかを口論して喧嘩になることが多かった。

従つて喧嘩も、当然チャンバラゴッコ（子供は「斬り合い」と言つた）が多かった。ガキ大将が勤皇の志士となつて一番強い。その他の者は佐幕派の切られ役か、御用、御用の捕り手であつた。チャンバラゴッコで遊ぶときは、「斬り合いをしよう」といったものである。

古本屋をよくのぞいた。その頃の子供の月刊雑誌には、少年世界（四十銭）、日本少年（三十銭）、そして讀海（二十銭）があった。それらは月後になると古本屋で買える。自分の持つて来た古雑誌を古本屋へ売る。その金に少し足せば、お目当ての古雑誌が買えたのである。

夜店の端の方には、必ず植木屋が店を出していた。その植木屋と一般の店との間に薄暗いところでは、よく演歌師が立っていた。男がバイオリンを彈き、女が唄うで樂譜を売る。寒い風でも吹いても寒い毒に思えた人が、まばらなときは、子供会の新しい流行歌は、この演歌師と映画のチンドン屋から貰えたものである。

夜店はよく一人で行った。古雑誌をたくさん並べた古本屋、アセチレンガスの匂い、そして演歌師のバイオリンと唄声等々。夜店といえば、そんな遠憶がとめどもなく浮んでくるのである。

小学生の映画見物は、大人の同伴がないと一般に禁止されていた。たまに映画を見た者は、仲間を集めてその映画の筋を語って聞かせる。要所要所で派手な立ち回りを真似て見せ、皆をうらやましがらせた。

チンドン屋の宣伝隊が過ぎ去ると、誰言うどなく「カツドウの看板に行こう」ということになる。異存の者ががない。連れ立つて映画館へ。手足な看板や窓に並べたスチール写真を飽かずに眺めて筋書きを偲び、映画鑑賞の気分に浸るのである。

概して子供仲間では、現代劇（新派と言った）、チャップリンやロイドの喜劇、ハリケーン・ハックなどの冒險物に入気があった。

たまに時代劇映画を見る機会があると、まず活動弁士の「東山三十六峰静かに眠る丑満時」の名調子に、うきうきとなる。悪人にいためつけられている者を、正義の士が駆けつけて助けているシーンでは、興奮の極みに達する。手を叩いて応援する。時には大声をあげて、回りをから叱られる。たまにしか映画館に入れない子供たちのは、「一回だけ見て帰るのではもったいない」とんどの者が二回続けて見た。中には三回も見えて翌日は頭痛で寝たという者もあった。

子供の夜の楽しみに夜店があった。○○町とか、△△通りといった所で、三の日や五の日など定まつた日に夜店が出た。臨時に電線を引いて電灯をつけ、夏も冬も十時頃まで店を開くもアセチレンガスで明かりをとっているところも多かった。

挿割り長屋の一番端に、間口を広く改造した
駄菓子屋があつた。ガラス越しに中の菓子がよく
見えるようにした箱が、ギッシリと並べてある。
主（ある）はお嬢さん。親にねだつてやつと買つ
た一銭玉を握りしめ、子供たちは「一銭デエ！」
と駆けこんでくる。駄菓子のほか、飲み物はミカ
ン水、ラムネ。遊び道具のベットン、バイ、ほう
づき、蠅石なども置いてあつた。
子供たちの買い物はさまざま。一銭を有効に使
おうと、あれこれ品定めに慎重な者。誰かが「ここ
はおいしいデエ」というと、すぐそれに飛びつ
く者もいる。店の前でベットンをしたり、ごみ箱
の上にゴザを置いてバイを競う者もいた。ベット
ンは「メンコ」といって、駄菓子「飴」などを印刷
丸形または長方形のホール紙を交互に打ち当てる
裏返つたのを取つて勝ちとする。バイは「ペイゴ
マ」といって、鉄製の小さなコマで、対戦者の
手にバイをゴザの上に投げ入れる。相手のバイが同
弾き出せば勝ち。勝者はゴザに引き出されたバイ
のなかに石をけり入れる。石けりを楽しんでいた。
駄菓子屋の近辺は、「まさに子供の社交場だった。

駄菓子屋では、夏にはかき氷を売り出した。シズンに入ると、かき氷販売を示す四角い旗が立たれる。大工用の鉗(かんな)を少し大きくしたしたものを使い、その刃に氷をあてて搔く。搔いた氷に蜜子かけ。白いみぞれは三銭、赤いいちごは五銭。子供のかかる家では、大きな丼鉢をかかえ、とめて買に来る者もあった。

寒い時には、チョボ焼や洋食が売られた。チョボ焼の器具は、長方形の薄い金属板で直徑一概りの丸い凹みがある。それにメリケン粉の溶いた水を流し込む。凹みのところには、桜えびやえんどう豆などを入れる。洋食は鉄板の上に、溶いたメリケン粉を直徑一〇厘米ほどに丸く広げ、そのどを上に桜えび、天ぶらのカキス、ねぎ、しょくうなどと一緒に載せる。どれもカントキ(七輪)の熱火で焼かれる。これが醤油をつつけ、新聞紙の切ったのに載せてくれる。熱くて匂いがよい。結構美味。しく、近所の小母さん達にも愛好者が多かった。チョボ焼は一鉢、洋食は二鉢。今になつて考えると、チョボ焼は「たこが二鉢」、洋食は「お好み焼」のルーツではなかつたろうかと思つたりしている。

本稿はもともと東部成会議会報第十一号から第十三号まで掲載されたものでは、前回会報第12号に載せられた文章を転載させて頂いた。今回は前記会報の第11号、第12号掲載分を転載させて頂きます。尚筆者の中島寧潤氏は平成十年五月十六日逝去されました。謹んで御冥福をお祈り申しあげます。

のことらしい。バイやベッタンの遊びには、名人、準名人級の子供がいや。不器用な私は、やるたびに負けでは取り上げられる。面白くない。何回か負け続けて、興味をなくしてしまった。

休日には仲のよい友だち二、三人と遠出をして、境川交差点の角の古い醸造所で、当時としては珍らしくエレベーターがあった。エレベーターは、格好な遊び場所である。もちろん買物をする鉄は持っていない。滅多に乗ったことのない近代兵器、車両から「昇つたり降りたり何回もくりかえす」。店員から「お客の邪魔だからね」と叱られるところ、監視者がいる市場の奥にかかるうろづく。こうして文明の利器、エレベーターを飽きるまで薬しんだものである。

学園だより

カラーフラッシュ活動

空手道部

平成10年4月～平成10年9月

◎大阪府春季大会
平成10年6月6～7日 於 東大阪市立総合体育馆

団体形 優勝
(出場選手) 村上、西村、松本、奥村、北

個人形 優勝
(出場選手) 村上、小林、井上、西川、藤村
個人形 優勝
(出場選手) 村上亮平(3年)

個人形 優勝
(出場選手) 村上一樹(2年)
個人形 優勝
(出場選手) 小林誠治(3年)
個人形 優勝
(出場選手) 村上(個人形)、小林(個人形)
個人形 優勝
(出場選手) 村上亮平(3年)

個人形 優勝
(出場選手) 藤村学樹、森充央、大原竜也(1年)

◎大阪府私学大会
平成10年8月28日 於 東大阪市立総合体育馆

団体形 優勝
(出場選手) 奥村一樹、松本卓也、藤本卓也、
個人形 優勝
(出場選手) 奥村一樹、松本卓也、藤本卓也、
個人形 優勝
(出場選手) 藤村学樹、森充央、大原竜也(1年)

◎大阪府私学大会
平成10年9月20日 於 東海大学付属御星高校

団体形 優勝
(出場選手) 奥村一樹、松本卓也、藤本卓也、
個人形 優勝
(出場選手) 北佑介(1年)

◎大阪府私学大会
平成10年9月20日 於 東海大学付属御星高校

団体形 優勝
(出場選手) 藤村学樹、森充央、大原竜也(1年)
個人形 優勝
(出場選手) 奥村一樹(2年)

個人形 優勝
(出場選手) 藤村学樹(1年)

第3位

藤村学樹(1年)

野球部

◎第80回全国高等学校野球選手権記念南大阪大会

1回戦は不戦勝

▽2回戦(住之江公園) 7月22日

大阪学芸 0 0 2 0 1 5 0 0 1 8
(7回コールドゲーム)

▽3回戦(住之江公園) 7月24日

大阪学芸 2 0 0 2 0 0 0 0 0 5
西成 0 0 0 0 0 0 0 0 0 5

▽4回戦(南港中央) 7月27日

大阪学芸 0 0 0 0 0 0 0 0 0 5
高石 0 0 1 0 0 0 0 0 0 5
20× 3 1

◎大阪春季大会
4月12日 大阪学芸 5 1 0 摂津

4月26日 大阪学芸 0 1 1 夕陽丘(延長10回)

◎大阪秋季大会
9月15日 大阪学芸 1 1 12 和泉

出場メンバー

木下・丸岡・天堀・石川・辻野・石原・東野
沙魚川・越野・石塚・佐野・徳山・中野

前田・宮下・山本・前田・金田・金谷・北原
倉成・齊藤・田中・中辻・西野・松田

詩吟部

◎第15回大阪地区選抜大会 6月28日 於 大工大

本校から西澤淳一(3年)、野村裕一(3年)が四軍メンバに選ばれ大活躍したこと優勝

◎第8回大阪高校ビーチバレー大会 8月7・8日 於 箱作海岸

清水谷 1 0 0 0 0 0 0 0 1 8
(7回コールドゲーム)

▽3回戦(住之江公園) 8月3日

大阪学芸 0 2 1 0 ● 涼 上
2回戦 大阪学芸 ● 0 1 2 ○ 清 風

◎第45回大阪私学バレーボール大会 9月13・15日 於 電通・舞洲

2回戦 大阪学芸 ○ 2 1 0 ● 明 星
3回戦 大阪学芸 ● 0 1 2 ○ 大阪学院

順位決定トーナメント 大阪学芸 ○ 2 1 0 ● 関大 1

以上の結果第9位にて近畿大会に大阪代表として出場します。

15名出場 団体の部 全国表彰受賞 文化連盟賞受賞

個人の部 全国表彰受賞者 長見浩佳 小西宏明 室谷幸太 嶽 延一

今中芳生 任昌律 橋本太志 嶽 延一

長見浩佳 小西宏明 室谷幸太 嶽 延一

鶴田晋吾 安藤崇 佐野彰彦 河原林洋

北井宏明 杉田英 水原剛守

【一般競争大会】 優秀賞受賞者

武林(次木) 武林(柏原) 岩崎真也

杉山(次木) 杉山(柏原) 水原剛守

杉山(次木) 杉山(柏原) 水原剛守

杉山(次木) 杉山(柏原) 水原剛守

【高等学校関係の大会】 長見浩佳(任昌律)

【高等学校総合文化祭】 岩谷幸太

【全国大会出場権獲得者】 長見浩佳(任昌律)

【全国大会出場権獲得者】 長見浩佳(任昌律)

【高等学校総合文化祭】 岩谷幸太

詩吟部

【一般の競争大会】 第15回新人競争大会

第15回新人競争大会(全国新人競争大会予選)

平成10年6月21日(日) 梅雨橋集会所

3名出場のうち、2名全国大会出場権獲得

【全国大会出場権獲得者】 長見浩佳(任昌律)

詩吟部

【詩吟部】 第52回大阪高等学校春季バドミントン競技大会

第52回大阪高等学校春季バドミントン競技大会

平成10年5月3日～6月7日 中央体育館他

10名出場 優勝賞受賞者

嶋 延一

【一般競争大会】 岩谷幸太

詩吟部

【詩吟部】 第22回全国高等学校総合文化祭吟詠刻詩舞部門発表大会

平成10年8月8日(土)

鳥取市民会館

平成10年8月9日(日)

桂川前(柏原)

上巻(四〇〇円)

下巻(七〇〇円)

二五〇〇枚(三〇〇円)

川柳作家岸本水府(本名岸本道郎)は成器商

業第四期生で明治四十二年の卒業です。彼の

成器時代の学校の教員、生徒の様子も仔細に

記述され、今宮校舎時代が思い起されます。

是非ご一読を。

(一)

平成10年度修学旅行

(2年5組に同行して)

総務部 大矢隆史

◎十月十八日(日)

関西空港に五時四十分頃到着。もうすでに数名の生徒達が来ていた。夜の便なので明日の観光が心配。

◎十月十九日(月)アリスベンは晴れ・シドニーは雨

ブリスベンでトランジット。時間がかかりすぎ。シドニーでは案の定、寝不足でおまけに雨の中の写真撮影等で体調をくずす生徒が出た。校長の話のとおり、いきなりファームへ直行した方が良いと思う。夜のリーガルでの食事(中華)は量も十分あり良かった。

◎十月二十日(火)

朝食後各ファームへ。途中でマクドナルドにて昼食をとる。各自、英語で注文をする。味はほとんど日本と同じ。夕方ファームに到着。夕食後キャンプファイヤー。非常に盛り上がった。スター・ウォッキングが印象にのこった。夜はかなり冷え込むのでウインドブレイカーは絶対に必要。部屋、その他の設備、夕食も良かつた。

◎十月二十一日(水)

朝食後、ブッシュウォーキング、その後各班に別れてゴルフ、アーチェリー、ブーメラン、乗馬を体験。生徒達は非常に喜んでいた。夕食後は、ブッシュダンスを予定していたところ、シドニーからの女子校生がそのダンスパートナーに臨時で合流。最高潮に盛り上がった。

◎十月二十二日(木)

朝食後ファームを出て、昼食は来た時と同じマクドナルドで。タロンガ動物園ではあまり時間(1時間足らず)がなく北原主任と私がジヤップエ校長招待の夕

◎十月二十三日(金)

朝食は生徒と一緒にホテルのバルコニーでとる。バイキング方式で味も量も良かつた。学校訪問としてこのクラスはミニアフィールド高校を訪問。両方の教員、生徒のスピーチのあと、土産物の交換をして

学内案内、バーボールの試合後、一緒に屋食をとる。午後は本校の詩吟部の吟詠、相手校はダンスを披露してくれた。その後ジャッフェ校長がミニアフィールドまで私を迎えてくれ、キャスルヒル高校へ連れて行ってくれた。キャスルヒルで学校案内や教員の紹介あと、個人的にジャッフェ校長の家を訪問。あまりの大きさにびっくり。かれの家で夕食をとり、ホテルまで送ってもらう。最終日なので、本日の最終見回りは午前一時まで実施した。

◎十月二十四日(土)

朝食の後、空港へ。数名の者が出発の時間になつてもまだ寝ていたので起こしに行く。生徒達もすばらしい思い出を頭につめこんで飛行機に乗る。生徒達の印象はだれに聞いても「おもしろかった」「まだもっと居たい」という返事が返ってきた。大きな事故もなく、この修学旅行は成功だったと思う。

◎十月二十一日(水)

朝食後、ブッシュウォーキング、その後各班に別れてゴルフ、アーチェリー、ブーメラン、乗馬を体験。生徒達は非常に喜んでいた。夕食後は、ブッシュダンスを予定していたところ、シドニーからの女子校生がそのダンスパートナーに臨時で合流。最高潮に盛り上がった。

◎十月二十二日(木)

朝食後ファームを出て、昼食は来た時と同じマクドナルドで。タロンガ動物園ではあまり時間(1時間足らず)がなく北原主任と私がジヤップエ校長招待の夕

第11回定期演奏会に

吹奏楽部顧問 北原祥弘

クラブ員もたいへんだったと思います。

しかし平成十一年度は、現在一年生に女性生徒四人が入部してくれており、例年のような九月になると部員数が減少すると

いう傾向に歯止めがかかり逆に少しづつ増加する傾向にあります。このような中で、クラブ内も明るく楽しく活動しています。ただし、基本的なことは今までと何ら変わりませんが、部員数が増えれば、もっと素晴らしい「音色」を追求できるのではないかと希望に満ちています。

これから予定は、一月に大阪府サンブルコンテスト(大阪府立青少年会館)にサキソフォーン四重奏が、出演三月には我が吹奏楽部活動の集大成とも言ふべき「第11回定期演奏会」(堺市民会館)が三月二十二日(祝)に控えています。頑張りますのでぜひご声援下さい。

第11回定期演奏会

日 時：平成11年3月22日(月)(祝)
午後6時開場

場 所：堺市民会館大ホール
(南海高野線堺東駅より徒歩10分)

同窓会事

同窓会では毎年下記の三大行事を開催しておりますので奮ってご参加下さい

平成十年度 同窓会定期総会開催

総務委員長 金谷道雄

平成十年四月十八日(土)午後二時より学園本館一階会議室において、定期総会が開催された。総会には約六十名の出席の下、井内同窓会会长の挨拶に続き、学園を代表して足立好一理事長のご挨拶があり、次いでこの四月就任されたばかりの学校長猪瀬正雄先生の学事報告があつた。今年から新設された高校の国際コースでは、はじめて男女共学となり、女子生徒も十三名入学したという話をきき、隔世の感を深くした。

この後総会の審議に入り、役員人事の一報改選を含め、各議案すべて全会一致で承認された。

総会終了後、長居パークホテルにて恒例の懇親会が開かれた、学園のギター部や空手道部の模範演奏や演技が披露され終始なごやかなムードの中楽しい会話がはずみ、旧交を温めあい、秋の懇親会や来年の総会での再会を約し、定期総会資料やお土産の目覚し時計の人ったデパートの袋をぶらさげて散会した。

高野山一泊参拝旅行

同窓会会長 井内博見

平成十年八月一日(土)昼過ぎの南海高野線に乗り、聖地高野山に向かった。



高野山参拝旅行参加者

高野町の人口は四千人強であるが真夏のこの時期には涼を求めて倍以上の人々が高野山の山上で過すという。それ程高野山の夏は凌ぎやすい。

普賢院に着くと、久し振りに故郷に戻った気持になる。心の安らぎと、ほっとした落着いた気分になる。この旅行に参加される誰もが等しく感ずるところだろう。

今年の参加者は二十三名だった。森下正吉氏、西野仁彦氏、高木康之氏らはご夫婦ではじめて出席頂き、米田同窓会副会長は義母様とご一緒に参加された。毎年出席される前衆議院議員の和田貞夫氏、大矢五朗両氏もお元気なお顔をお見せ頂いた。一日夕刻の会食はなごやかに楽しく和気あいあいの雰囲気で話もはずんだ。

秋季懇親会開催

厚生委員 高木 康之

平成十年十一月二十一日(土)午後六時より同窓会秋季懇親会が、難波ニューミュンヘン南大使館において盛大に開催された。五時半、受付開始当初から、同窓生が続々とかけつけ六時開会時には七十余名が出席され満席の状態となつた。開会にあたって、まず同窓会物故者への黙祷がささげられ、井内博見会長より猪瀬正雄先生より、学園の近況が同窓生に伝えられた後、伊丹啓次名誉会長より乾杯の音頭が発せられた。

ここからは、同窓生達も、学園時代の話に花を咲かせながら大いに語りあつてゐる様子であった。アトラクションの部では、コロンビアの林田麻友子さんの息もつかせぬ名調子に、同窓生からもかけ声があがる等、会場内は、熱気に満ちあふれていた。

閉会にあたっては同窓会の歌、校歌斉唱が会場全員で行われ、最後に渡辻辰夫問から万歳三唱、久米雅男副会長の閉

翌朝は、大教会で写経を行い、授戒を受けたあと金剛峯寺を拝観、昭和五十二年四月の昭和天皇、皇后行幸、啓時の拝謁の間など、特別に拝観後、奥の院まで小型バスで直行案内係の説明をきいた後参詣、再びバスにて普賢院へ帰着。昼食を皆で戴き、二時頃参観、夫々帰路についた。

たたた一泊の参拝旅行であるが、心洗われる思いで山を下るのが常である。

この行事は同窓会として力を入れて実行しているので、もう少し参加者が増えることを期待したい。

西恒田	西川	川崎	藤本	辻戸	和田久二郎	和田木栄太郎	和田大正	和田一郎	和田二郎	和田三郎	和田四郎	和田五郎	和田六郎	和田七郎	和田八郎	和田九郎	和田十郎	和田十一郎	和田十二郎	和田十三郎	和田十四郎	和田十五郎	和田十六郎	和田十七郎	和田十八郎	和田十九郎	和田二十郎	和田二十一郎	和田二十二郎	和田二十三郎
西恒田	西川	川崎	藤本	辻戸	和田久二郎	和田木栄太郎	和田大正	和田一郎	和田二郎	和田三郎	和田四郎	和田五郎	和田六郎	和田七郎	和田八郎	和田九郎	和田十郎	和田十一郎	和田十二郎	和田十三郎	和田十四郎	和田十五郎	和田十六郎	和田十七郎	和田十八郎	和田十九郎	和田二十郎	和田二十一郎	和田二十二郎	和田二十三郎
西恒田	西川	川崎	藤本	辻戸	和田久二郎	和田木栄太郎	和田大正	和田一郎	和田二郎	和田三郎	和田四郎	和田五郎	和田六郎	和田七郎	和田八郎	和田九郎	和田十郎	和田十一郎	和田十二郎	和田十三郎	和田十四郎	和田十五郎	和田十六郎	和田十七郎	和田十八郎	和田十九郎	和田二十郎	和田二十一郎	和田二十二郎	和田二十三郎
西恒田	西川	川崎	藤本	辻戸	和田久二郎	和田木栄太郎	和田大正	和田一郎	和田二郎	和田三郎	和田四郎	和田五郎	和田六郎	和田七郎	和田八郎	和田九郎	和田十郎	和田十一郎	和田十二郎	和田十三郎	和田十四郎	和田十五郎	和田十六郎	和田十七郎	和田十八郎	和田十九郎	和田二十郎	和田二十一郎	和田二十二郎	和田二十三郎
西恒田	西川	川崎	藤本	辻戸	和田久二郎	和田木栄太郎	和田大正	和田一郎	和田二郎	和田三郎	和田四郎	和田五郎	和田六郎	和田七郎	和田八郎	和田九郎	和田十郎	和田十一郎	和田十二郎	和田十三郎	和田十四郎	和田十五郎	和田十六郎	和田十七郎	和田十八郎	和田十九郎	和田二十郎	和田二十一郎	和田二十二郎	和田二十三郎

会報

ご逝去の通知を頂いた方々のお名前と卒業年次を掲載し、故人のご冥福を祈るとともに同窓生各位にお知らせします。
(敬称略)

会の辞で幕をとじた。帰路につく同窓生連全員の笑顔が懇親会の成功を物語つてゐる様であつた。

同窓会活動報告

交替につき報告

するため、同窓会として今後名簿に希望する同窓生のことを考え、100回追加購入し備えておくこととした。

(自平成10年4月1日 至平成10年9月30日)

平成10年4月6日(月) 大阪学芸高校入学式

井内会長 川村顧問出席

伊丹名譽会長 井内会長出席

平成10年4月18日午後2時

平成10年度定期総会 53名出席

①開会挨拶

②来賓挨拶

③学事報告

④議長選出

⑤平成9年度行事報告

⑥平成9年度監査報告

⑦平成9年度監査報告

⑧役員改選

⑨平成10年度予算審議

⑩閉会挨拶

⑪校庭にて記念撮影

⑫懇親会開催 出席者62名

⑬懇親会(ギター部演奏、空手道部模範演技、試験、交歓、校歌齐唱、同窓会の歌齐唱、中乙)

⑭閉会挨拶

⑮来賓挨拶 ⑯乾杯

⑰懇親会(ギター部演奏、空手道部模範演技、試験、交歓、校歌齐唱、同窓会の歌齐唱、中乙)

⑲閉会挨拶

⑳来賓挨拶 ⑳乾杯

㉑懇親会開催 出席者17名

㉒同窓会会員名簿進行状況

㉓その他として秋季懇親会を平成10年11月21日午後5時30分受付 開会午後6時 場所ニューミュンヘン大使館(2F和室)にて会費8千円で開催することを決定 又会報第4号発行準備についても協議、更に学園理事監事の

平成10年6月13日(火) 午後4時より 長居にて「なにわ」にて 井内会長理事就任のお祝い会を有志により実施 出席者25名

平成10年7月27日(月) 午後10時 中央出版印刷

永井久雄氏と打合わせ 同窓会会員名簿7月31日完成、発送する 名簿作成に関し収支報告を聽く。井内会長が応対す 名簿販売部数65冊に止まる

平成10年8月1日(土) 午後5時 高野山普賢院参拝旅行実施 参加者23名

懇親夕食会 8月2日午後朝勤行 記念写真撮影後、大教会にて写経を行い、授戒を受けた後、金剛峯寺見学 マイクロバスで奥の院へお参り普賢院へ戻り昼食後散会

平成10年8月30日(日) 午後2時 道頓堀ホテルにて 同窓会東住吉支部創立総会開催

参加者30名 開会の挨拶井内会長 来賓挨拶

前校長永和夫氏、会則制定 支部役員選出

幹事代表挨拶 西野仁彦氏、経過報告大引組織委員長等あり その後懇親会に移り

伊丹名譽会長の乾杯のご発声のあと和気あいあいのうちに終了

平成10年9月27日(日) 高校文化祭 大矢副会長出席

平成10年9月30日(水) 青少年文化センターにて学園主催の文化講演会が開催された。

大矢副会長出席

平成10年10月3日(日) 午後3時より 学園会議室にて 同窓会役員委員会開催 出席者23名

議題①秋季懇親会開催の件

作成委員会を発足させることとし

各副会長、橋本、北村、及び高木氏ら

各委員に就任して頂くこととなつた。

定冊数70冊を見込んでいたが、同窓生からの申込実売冊数は65冊(前回平成5年版は80冊購入された)に止つた。

同窓会会員名簿100冊購入の件、7月末日発行された本会員名簿は当初発行予定冊数20冊を見込んでいたが、同窓生

から申込実売冊数は65冊(前回平成5年版は80冊購入された)に止つた。

学校が購入した80冊及び広告掲載者への無償配布70冊を加えても80冊に止ま

るため、同窓会として今後名簿に希望する同窓生のことを考え、100回追加購入し備えておくこととした。

行参加者23名、予定通り8月1日(火)2日に実施。(6)東部成器会総会への同窓会長出席と祝金として金一封を贈るこ

と。(c)東住吉支部が平成10年8月30日(日)に開催された30名出席、同窓会本部より金一封を贈呈したこと等につき報告があつた。

平成10年11月7日(日) 午後2時 学校会議室にて会報作成委員会開催 出席者8名、原稿執筆割当て 原稿依頼先等協議

平成10年11月9日(月) 午後1時からフェスティバルホールにて 学園主催95周年記念文化行事開催された 同窓会から井内会長、上野、久米、松田、大矢、藤田各副会長、井原、吉田、上木戸、金谷、北村の各役員が出席

平成10年11月14日(土) 午後5時より 鉛座メーテル千疋屋にて 東部成器会総会が開催され

た 出席者9名 井内同窓会長出席

平成10年11月21日(日) 午後3時より 学校会議室にて 会報作成委員会開催 出席9名

原稿一部提出 原稿依頼につき担当者決定

表紙イラストの選定 広告依頼先等、検討する

平成10年11月21日(日) 午後5時30分より

秋季懇親会開催 出席登録者82名 於ニューミュンヘン大使館

議題②同窓会報「学芸」第4号発行について

作成委員会を発足させることとし

各副会長、橋本、北村、及び高木氏ら

各委員に就任して頂くこととなつた。

定冊数70冊を見込んでいたが、同窓生

から申込実売冊数は65冊(前回平成5年版は80冊購入された)に止つた。

同窓会会員名簿100冊購入の件、7月末

日発行された本会員名簿は当初発行予

定冊数20冊を見込んでいたが、同窓生

から申込実売冊数は65冊(前回平成5年版は80冊購入された)に止つた。

学校が購入した80冊及び広告掲載者への無償配布70冊を加えても80冊に止ま

温かいご寄付に感謝

成富学園同窓会・集金事業へのご支援を本会報を通じ、同窓生の皆様にお願いいたしましたところ多数の皆様から温かいご寄付を頂戴いたしております。ここにご芳名を掲げ深く感謝の意を表します。
●平成十一年一月一日以後、平成十三年三月三十日までの受付分(到着順)
万代 真孝様(平成4年卒) 和泉 崑市 和田 貞夫様(昭和19年卒) 墓 松田 清一様(昭和32年卒) 大阪市住吉区 久保 義男様(昭和22年卒) 墓 井内 節男様(昭和18年卒) 大阪市東住吉区 森 英明様(昭和16年卒) 大阪市生野区 井上健次郎様(昭和4年卒) 大阪市阿倍野区 高田 良造様(昭和23年卒) 大阪市中央区 山本 卓也様(昭和49年卒) 墓 和田 市 中村 凡夫様(昭和16年卒) 東京都杉並区 竹本 富晴様(昭和18年卒) 大阪市住之江区 大引 費治様(昭和40年卒) 墓 数田 政宏様(昭和50年卒) 南河内郡美原町 米原 利世様(昭和38年卒) 南河内郡吉寺町 下川 貴生様(平成3年卒) 大阪市東住吉区 山田裕比古様(昭和37年卒) 大阪市城東区 榮 榮一郎様(昭和21年卒) 大阪市住之江区 立石 田口 龍夫様(昭和45年卒) 墓 平野 忠昭様(昭和31年卒) 萩木 市 森下 正吉様(昭和13年卒) 大阪市平野区 篤史様(平成9年卒) 墓 川田 峰夫様(昭和40年卒) 墓 中市 立石 荘一郎様(昭和21年卒) 大阪市西成区 田口 龍夫様(昭和45年卒) 墓 平野 忠昭様(昭和31年卒) 萩木 市

音地 弘安 構成3年卒	大阪市平野区
上杉 浩樹 構成3年卒	東京都台東区
飯田八四郎 構成4年卒	川崎市川崎区
大日 吾郎 構成9年卒	泉南市
大矢 五朗 構成8年卒	大阪市住之江区
門林 茂次 構成43年卒	泉大津市
佐川 稔和 構成43年卒	市
村上 尚範 構成5年卒	市
山本 和輝 構成12年卒	藤井寺市
足立 好一 構成24年卒	大阪市浪速区
村上 浩昭 構成9年卒	市
北村 栄次 構成63年卒	市
北村 浩之 構成61年卒	市
橋本 俊一 構成4年卒	市
北島利一 構成7年卒	神戸市垂水区
船橋 清一 構成11年卒	市
井上 栄三 構成4年卒	生駒郡三郷町
仲嶋 弘次 構成13年卒	和歌山市
乾 利夫 構(昭和14年卒)	大阪狹山市
中野 利彦 構(昭和59年卒)	市
辻 筲井 吉治 構(昭和23年卒)	生駒市
大嶋 松尾茂三郎 構(昭和17年卒)	西宮市
九星 関本 博謙 構(昭和11年卒)	三木市
曾根 忠雄 構(昭和15年卒)	米子市
坂田健太郎 構(昭和16年卒)	市
和田 貞夫 構(昭和19年卒)	堺市

三木	真緑邸(昭和4年卒) 大阪市住之江区	門内	博志村(昭和25年卒) 松原市
澤内	善紀様(平成9年卒) 大阪市更生吉区	村田	一治様(昭和16年卒) 茂木市
尼川	龍三様(昭和31年卒) 大阪狹山市	金	哲雄様(昭和42年卒) 大阪市淀川区
小田	知宏様(平成8年卒) 堺市	木本	教文様(平成7年卒) 堺和田市
門出	章次様(昭和29年卒) 香芝市	松原	獎様(平成4年卒) 堺市
千櫻	美之様(昭和15年卒) 寺前良市	藤田	光雄様(昭和25年卒) 沖戸市瀬区
木村	佐喜夫様(昭和14年卒) 寺前良市	伊丹	耕治様(昭和43年卒) 八尾市
岸野	幹三様(昭和14年卒) 国山市	山上	太郎様(平成8年卒) 泉南市
羽田	健一郎様(昭和31年卒) 淡水市	植野	聖一様(昭和39年卒) 堺市
河守	武士様(昭和39年卒) 大阪市住之江区	着林	一男様(昭和39年卒) 堺市
細井	脩様(昭和27年卒) 和泉市	松田	和人様(昭和41年卒) 和泉市
田中	善三郎様(昭和17年卒) 草良市	中村	政男様(昭和14年卒) 西宮市
中山	豊次郎様(昭和13年卒) 大阪市阿倍野区	高橋	秀男様(昭和43年卒) 唐崎島根郡七尾市
三崎	恒夫様(昭和43年卒) 大阪市住吉区	新山	芳慈様(昭和21年卒) 石狩市
福本	正幸様(昭和14年卒) 大阪市阿倍野区	高木	康之様(昭和3年卒) 名張市
田中	敏文様(昭和47年卒) 堺市	尾喜	雅啓様(平成3年卒) 泉南市
前	茂宏様(平成9年卒) 堺和田市	片田	有一様(昭和20年卒) 大阪市住之江区
松村	光三様(昭和34年卒) 有波市	角倉	毅様(平成9年卒) 大阪市住吉区
東川	博輝様(昭和20年卒) 大阪市平野区	柴田	義徳様(昭和13年卒) 舊前市
青戸	繁喜様(平成6年卒) 高石市	柴田	猛様(昭和13年卒) 舊前市
森田	弘光様(昭和26年卒) 萩原町	村瀬	義郎様(昭和37年卒) 古出市
仲	本美代雄様(昭和13年卒) 大阪市東住吉区	岡本	亮亮様(昭和10年卒) 吉塚市
石幸	利樹様(昭和10年卒) 岡原市	林	直亮様(昭和10年卒) 吉塚市
生山	剛様(昭和63年卒) 大阪市西成区	塙田	好一様(昭和4年卒) 大阪市中央区
岡崎	義穂様(昭和25年卒) 大和郡山市	塙田	好一様(昭和4年卒) 大阪市北区
安田	正光様(昭和20年卒) 大阪市東住吉区	森島	春夫様(昭和26年卒) 大阪市北区
坂本	慶人様(平成9年卒) 和泉市	津木	要様(昭和17年卒) 大阪市鶴見区
岡崎	義勝様(昭和24年卒) 大和郡山市	岡本	弘様(昭和20年卒) 大阪市西成区
國崎	義穂様(昭和25年卒) 大和郡山市	麻生	崇様(平成6年卒) 泉佐野市
小池	一雄様(昭和49年卒) 広島市西区	中戸	健一様(昭和36年卒) 大阪市西成区
鈴木	一雄様(昭和51年卒) 岸和田市	吉田	秀勝様(昭和25年卒) 猿古市鶴見区
鈴木	一雄様(昭和25年卒) 岸和田市	鶴田	博様(昭和25年卒) 泉南郡熊取町

中村喜喜 雄(昭和14年卒) 南海汽船社員	寺島 正包様(昭和9年卒) 大阪市住吉区	三浦 宏之様(平成10年卒) 奈良市	蘿本仙太郎様(昭和25年卒) 大阪市速速区
中田 和光様(昭和42年卒) 松阪市	橋 泰男様(昭和37年卒) 羽曳野市	目連長一郎様(昭和12年卒) 富田林市	西野 仁彦様(昭和31年卒) 大阪市更生吉区
大矢 隆史様(昭和40年卒) 大阪市住吉区	鶴田 持彦様(平成8年卒) 大阪市住吉区	竹内 一様(昭和34年卒) 梨ヶ崎市青葉区	二宮 建邦様(昭和39年卒) 大阪市住吉区
菊地 慶義様(平成10年卒) 大阪市港区	福谷 貴之様(平成10年卒) 大阪市住吉区	柏谷 茂原 祐二様(昭和21年卒) 堺市	西田 孝様(昭和13年卒) 大阪市住吉区
小林 彌作様(平成6年卒) 和泉市	日比野 壯志様(平成9年卒) 堺市	佐々木 繁様(昭和58年卒) 田嶋市田嶋地区	太田 隆之様(元 機長) 大阪市天王寺区
吉尾 誠基様(昭和13年卒) 鹿児島市	吉村 太一様(平成10年卒) 大阪市西成区	吉岡 幸次郎様(昭和19年卒) 豊中市	橋 和田 貞夫様(昭和25年卒) 大阪市住吉区
小柳 良平様(平成9年卒) 和泉市	西岡 中野伊勢夫様(昭和11年卒) 京良市	松井 安國幸次郎様(昭和19年卒) 東大阪市	西野 建邦様(昭和11年卒) 大阪市住吉区
平尾 満様(昭和35年卒) 大阪市西区	松井 信康様(昭和11年卒) 宇都宮市厚生南区	泰三様(昭和26年卒) 福岡市南区	西野 仁彦様(昭和31年卒) 大阪市住吉区
水谷 友一様(昭和35年卒) 大阪市阿倍野区	森 信 泰 正 明 様 (平成10年卒) 大阪市西成区	平尾 満様(昭和35年卒)	西野 仁彦様(昭和31年卒) 大阪市住吉区
北田 洋一様(昭和25年卒) 八尾市			
		十一日までの寄付者 二十六名	
			二十三万九千円

吉田　末滿様（昭和16年卒）大坂市住之江区
小出十代和様（昭和38年卒）堺　市
杉原　吉己様（昭和13年卒）松　江　市
平松　雄義様（昭和19年卒）塩竈橋通川市
小林　五郎様（昭和12年卒）東　大阪市
別所　努武様（昭和8年卒）大阪市東成区
赤井　照夫様（昭和19年卒）三　本　市

谷口	武太様(昭和15年卒)・奈良野市	河村危太郎様(昭和12年卒)・大森町西野町
森口	肇様(昭和9年卒)・西宮市	北風 俊雄様(昭和17年卒)・堺
山口草太郎様(昭和18年卒)	八尾市	坂田 錠朗様(昭和25年卒)・大阪市生野区
渡壁	辰夫様(昭和11年卒)・大阪市港区	小川 博久様(昭和10年卒)・和泉
渡辺	亨様(昭和39年卒)・大阪市天王寺区	佐藤 正典様(昭和54年卒)・堺
青山	明様(昭和36年卒)・福岡市中央区	高橋 剛様(昭和63年卒)・大阪市住吉区
原	琢美様(マツミ様)・大阪市都島区	尾原 広俊様(平成10年卒)・大阪市都島区
中七番(一部)・(日出子)・(大森町西野町)		
伊藤		
多代(大正6年)・(大正12年)		

大迫
坂四郎〔昭和37年卒〕岡山市
平成十年一月一日～平成十年三月三十日
までの寄付者百七十一名
金額百四十三万六千円

平成十一年度成器学園同窓会への 募金につきご支援方お願ひ

平成九年度（平成九年四月一日より平成十年三月三十一日まで）募金事業は募金者数二百五十二名、募金額二百十二万八千五百円に達する多額のご寄付をお寄せ頂きました。この募金にご協力頂きました方々のご芳名は会報第三号及び本号ご芳名録に記載させて頂きました。

その後平成十一年四月一日以降平成十年十二月三十一日までの募金状況は募金者数二十六名募金額二十三万九千円となっております。（前年同期には八十一一名六十九万一千五百円）前年同期に比べ約三分の一に減少しております。景気が悪く倒産や雇用不安の経済情勢の中では、募金の集まりが悪くなるのも致し方ないことが思われますが、同窓会活動の活発化会報発行を通じての母校と同窓生との心の繋ぎ役として、又目前に迫りつつある学園創立百周年に際し、同窓会としても、あらん限りの協力をしていくためにも、募金活動は今年度も継続実施致します。

同窓会が健全で活発に活動している学校は学校そのものが高い評価を受け、世間の評判も良好です。その同窓生と母校を結びつける糸は年一回発行の同窓会報

「学生」だけであります。同窓会としてはこの会報を全同窓生にお届けすることで、母校への関心を高めて頂き、同時に同窓会活動にもご理解とご協力を得たいと考えて参りました。

会報を一回発行するだけで学園より交付される会員収入の1・5倍の出費を伴います。

平成九年度からは特別年会費もお願いし、申し訳ない次第ですが、同窓会財政の健全化、活動の活発化及び会報継続発行等々に資するため、何卒ご理解を賜り、ご協力、ご支援のほどお願い申し上げます。

募金先 成器学園同窓会

連絡先 平成十一年度募金事業本部
〒588-0003 大阪市住吉区長居
一丁目四番十五号

募金主体 成器学園同窓会

募金は一口一万円口数制限なしで

（ただし事情により一口単位に達しない場合にも喜んで）お受け致します。

募金本部長 渡辺辰夫

委員 井内博見

東川博 松田和人 北村裕次
田中耕作 米田弘義

平成9年度 収支決算書

（自 平成9年4月1日～至平成10年3月31日）

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差引増減額	備 考
会 費	2,000,000	2,000,000	0	平成10年卒業生400名分×5千円 326名分×2千円=1,650,000円 手数料455,000円
特 別 年 会 費	2,000,000	1,594,040	△ 405,960	
特 別 合 计 余 利 金	100,000	148,758	48,758	
総 収 入	5,000	1,977	△ 3,023	
店 店 告 料	540,000	328,680	△ 211,320	
寄 付 金 利 金	30,000	0	△ 30,000	店舗営業マフタマ分3万円は4月に入金され 同窓会各会員からの寄付は全て資金へ入金
期 初 残 銀 金	2,742,434	2,742,434	0	
合 计	7,419,434	6,817,445	△ 601,989	

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差引増減額	備 考
給 会 費	200,000	145,000	△ 55,000	定期総会費、記念品代外
員 工 費	50,000	0	△ 50,000	
運 転 費	350,000	270,500	△ 79,500	
印 刷 費	2,000,000	1,979,850	△ 20,150	同窓会報字画取扱費、各行事、案内印刷 同窓会会報制作代、各種会議、郵送代
通 信 費	1,500,000	1,534,325	△ 165,675	文房具、事務用品
耗 品 費	30,000	16,635	△ 13,365	
事 務 費	0	0	0	
記 念 品 費	300,000	240,000	△ 60,000	秋慶会場、空手道部、野球部、バスケット 部、各部への競技費
記 念 品 費	100,000	91,920	△ 8,080	卒業証書人手配代、記念品代外
交 通 費	100,000	0	△ 100,000	定期総会費、記念品代外
旅 費	50,000	40,304	△ 9,696	会員登録料、記念品代外
予 備 費	100,000	0	△ 100,000	会員登録料、記念品代外
（ 総 費 小 計 ）	(4,780,000)	(4,118,534)	△ 661,466	
次 期 残 銀 金	2,639,434	2,638,911	△ 59,477	下欄に残金会明細を記載
合 计	7,419,434	6,817,445	△ 601,989	

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	2,000,000	給 会 費	200,000
特 別 年 会 費	2,000,000	員 工 費	50,000
特 別 合 计 余 利 金	100,000	運 転 費	350,000
総 収 入	5,000	印 刷 費	2,000,000
店 店 告 料	540,000	通 信 費	1,500,000
寄 付 金 利 金	30,000	耗 品 費	30,000
期 初 残 銀 金	2,742,434	記 念 品 費	100,000
合 计	7,419,434	交 通 費	100,000
		旅 費	50,000
		予 備 費	100,000
		（ 総 費 小 計 ）	(4,780,000)
		次 期 残 銀 金	2,639,434
		合 计	7,419,434

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	2,000,000	給 会 費	200,000
特 別 年 会 費	2,000,000	員 工 費	50,000
特 別 合 计 余 利 金	100,000	運 転 費	350,000
総 収 入	5,000	印 刷 費	2,000,000
店 店 告 料	540,000	通 信 費	1,500,000
寄 付 金 利 金	30,000	耗 品 費	30,000
期 初 残 銀 金	2,742,434	記 念 品 費	100,000
合 计	7,419,434	交 通 費	100,000
		旅 費	50,000
		予 備 費	100,000
		（ 総 費 小 計 ）	(4,780,000)
		次 期 残 銀 金	2,639,434
		合 计	7,419,434

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	2,000,000	給 会 費	200,000
特 別 年 会 費	2,000,000	員 工 費	50,000
特 別 合 计 余 利 金	100,000	運 転 費	350,000
総 収 入	5,000	印 刷 費	2,000,000
店 店 告 料	540,000	通 信 費	1,500,000
寄 付 金 利 金	30,000	耗 品 費	30,000
期 初 残 銀 金	2,742,434	記 念 品 費	100,000
合 计	7,419,434	交 通 費	100,000
		旅 費	50,000
		予 備 費	100,000
		（ 総 費 小 計 ）	(4,780,000)
		次 期 残 銀 金	2,639,434
		合 计	7,419,434

○平成九年四月一日～平成十年三月二十日までの収支決算、財産目録は左記の通りです。

毎年卒業生には同窓会から卒業証書を入れる筒を全員に配布し、同窓会幹事に就任してくれるクラスの代表二名、学年全体で二十七名には委嘱状と記念品を贈呈しています。

春の定期演奏会、秋の御堂筋パレード等で活躍している吹奏楽部をはじめ、全国大会、インターハイ出場の空手道部、全国高校総合文化祭で頑張っている詩吟部、高校野球部では四回戦まで

○また特別年会費も平成九年四月一日より平成九年三月三十日までの間に募金者数二百五十二名、募金額二百十二万八千五百円に達しました。

○尚左記決算書は平成十年四月十八日（土）開催の定期総会にてご承認を得ております。

平成九年度 決算報告

進出した野球部等近畿大会や全国大会に出場の際に同窓会より金一封を贈り活動に協力しています。

○平成九年度の募金は同窓生のご支援により平成九年四月一日より平成十年三月三十日までの間に募金者数二百五十二名、募金額二百十二万八千五百円に達しました。

○尚左記決算書は平成十年四月十八日（土）開催の定期総会にてご承認を得ております。

○また特別年会費も平成九年四月一日より平成九年三月三十日までの間に募金者数二百五十二名、募金額二百六十五万円に達しました。

○ここに深く敬意を表し、厚くお礼申上げます。尚左記決算書は平成十年四月十八日（土）開催の定期総会にてご承認を得ております。

